

月報

コイノニア

峰町キリスト教会

2019年9月号

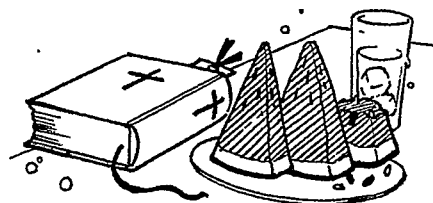
Vol. 301



受洗おめでとうございます

當麻 恵美さん

受洗日:2019年7月15日



『當麻さんって、どの人?』という方も、『えっ、とーまさん、まだ洗礼受けてなかったの!?』という方もいると思います。2011年にジョイフルクリスマスのゴスペルコンサートに出させて頂いて以来、本当に色々な学びに参加させて頂いているので、週に何度もこの教会に出没しているにもかかわらず、未だに何の登録もない謎の人物が私なのです(笑)。

ゴスペルコンサートに出ていた友人と、趣味で写真のアルバム作りのワークショップをしていて、「何コレ、素敵な写真ね!」→「そうだ、恵美ちゃんも一緒に出ようよ。クリスチャンでなくても、誰でもWelcome なんだよ。楽しいよ!」と誘われたのがきっかけでした。それから何年かの間、秋になると日曜午後の練習に来始めて、クリスマスにコンサートが終わるといなくなる・・・という、季節労働者のような教会通いが始まりました。ゴスペルはとても楽しく、幼かった娘達も kids クワイヤに出させて頂き、本当に素晴らしい経験でした。でも、12月が終わると、また秋まで歌う機会がなくなります。もっと歌いたい・・・。

その頃、市内で分譲マンションに引っ越しをしたのですが、新しいご近所さんからの『お宅の娘さん達のピアノの練習の音がうるさい。』という執拗かつ理不尽なクレームが始まり、その事で私は心身共に完全に病んでしまっていました。色々対策もしたのですが、全く効果がなく、八方塞がりな状態で、心が折れそうでした。そんな時、Heaven's Shout が始まったのです。「通年で歌える!」と初めて参加した夜、ディレクターの弥生さんがニコニコしながら指揮を降り、沢山の人が本当に楽しそうに、幸せそうに大きな声で(賛美)歌っている中に入ると、あっという間に涙が溢れ、私は嗚咽していました。

『ここには、こんなにも音楽を愛し、楽しんでいる人達が集っているのに・・・！』という思いでした。孝枝ちゃんが私の肩を抱き、「お祈りして貰おうね。」と真也先生の所へ連れて行ってくれました。後に私は、Gospel とは福音＝good news＝良い知らせ であり『神への賛美』であることを心から感じるようになるのですが、実はこの頃はまだ、Joyful Christmas の練習でも毎回、「スポットライトを浴びる為ではなく、会場の一人でも多くのお客様に、福音(gospel)を伝えよう！という思いで歌って欲しいんだよねー！」と熱い栃木弁で語って下さる夏織先生の言葉にも、『・・・なんか、ワタシみたいなのがスミマセン(汗)』という場違いな思いがあったのです。

というのも、私が 10 歳の時に、12 歳だった最愛の兄を突然亡くして以来、両親は近くの寺の檀家になり、寺の行事は勿論、毎朝番仏壇に手を合わせ、チンチーン(鈴)「お兄ちゃん、行って来ます。」「ただいま。」と育って来た私は、般若心経も自然に覚えてしまったくらいの仏教徒だったからです。兄と私は本当に仲が良く、いつも一緒に、世界一大好きな人は、迷いなく兄でした。幸せだった日々は、兄が死んだ日から暗闇に変わりました。現在のように、スクールカウンセラーなどというものはありませんでした。優等生だった私は、「もう大丈夫だろう。」と五日目には学校へ行かされました。兄の死は家族全員にとってあまりにも理不尽で悲しく、兄が出て来た夢の話をしたら、皆が泣き崩れてしまった経験があり、父とも母とも悲しみを分かち合う事も出来ずに、私は毎夜独りで日記が涙でバリバリになる程、泣きながら自分の気持ちを綴るのが何年も続きました。「ご両親はどんなにつらかったでしょうね。」と皆に言われ、『私は・・・???』と行き場のない悲しみを抱えました。「お兄ちゃんはあまりに清く優しく賢い良い子だったから、神様が早く手元に置きたくて、天に召されたんだよ。」と、クリスチャンでもない、いわゆる一般的日本人の宗教観であろう何人かの人達が、お葬式で私達を慰める為に言いました。彼らも、本当にそう思っていたから自然に出た言葉だと思います。でも私は、大切な兄を奪った『天』という漠然としたものに激しい怒りを感じ、『神様が居るんだったら、何故私からお兄ちゃんを奪ったんだ！返せ。返せ。返せっ！』と心の中で叫んでいました。私は小4でしたが、毎朝起きる度に、『兄はもうこの世に居ない。』という現実にも身を切られるような思いで絶望し、『神様、もし私の寿命が 80 歳であるならば、半分を兄にあげて、40 歳まででも構いません。一緒に生きられるようにして下さい。』と、本気で祈りました。それが叶っていたら、私はもうとうにここには居ない筈なのですが(笑)。私は現在、結婚して家庭を持ち、兄がいない事で困ることはありません。でも今でもとても悲しいのです。もしかしたら PTSD とかいうのなのかもしれません。40 年経ってもこんなブラコンでいる事は良くない、とずっと悩んでもいました。でも、この教会で学び始めた数年前から確かに、その悲しみが別のものへと変わっていきました。イエス様の臨在をはっきりと感じるようになったからです。

ゴスペルや、子供を連れての楽しい行事などに参加するうち、須賀さんから、「基礎教理を学んでみな

い？」と誘われ、早速学びが始まりました。私は兄の事があった為に、『人は何故生まれ、死んで行くのか？』という、いわゆる『死生学』や哲学に自然に興味があり、浄土真宗の祖である親鸞上人の『歎異抄』などを学んでみた事もありましたが、難解で、救いは得られませんでした。英語が好きで、外国人の友人も多い為、『キリスト教とは何ぞや？』を知りたくて、過去に友人に誘われるままにモルモン教会などで少し教えて貰ったこともあるのですが、「???」で眠くなり逃げ出した事もあります。

ここでの『ファーストステップ』は Q&A 方式で、単純明解でした。それでも最初は、『神様は居るかもしれない。須賀さんのことは好きだけど…イエス様って何か胡散臭くない!?』くらいに考えていたのです(すみません×すみません…(汗))。しかし、何百年もの時と場所の隔たりの中で、多くの全く違う著者が書いたという書物(預言・伝承・手紙等)を後に編纂した、という聖書なのに、中身は同じ真実が書かれていて、驚きの連続でした。聖書には、神の息吹が散りばめられていて、何故2千年後の現在も世界のベストセラーであるかが理解する気がしました。10 回の学びが終わる頃、『どうしよう…終わっちゃったら寂しいな。』とっていると、現在イギリスで宣教中の相馬裕美さんを紹介して頂き、バイブルディスカッションに繋がりました。Non Christian 中心の学びで、前述のような、罰当たり？かつ素朴な？馬鹿げた質問にも根気良く付き合い、ひたすら一緒に考えてくれて、有意義な交わりが始まりました。教会に来ると、他の学びでもクワイヤでも、素敵な人達に囲まれるようで、心が洗われるような気がしました。信仰のある人々の優しさ・強さ・しなやかさの秘密を知りたくて、礼拝にも出てみるようになりました。

そんなある日、いつものようにいそいそと教会の扉をカラカラ…と開けた瞬間、『あ、今私、イエス様の体の中に入った。』という感覚がありました。何かとても優しいものに包まれ、居心地の良い場所に入った感じです。

そして、バイブルディスカッションで、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ。(我が神、我が神、何故私をお見捨てになったのですか。) マタイ 27:45』の箇所を学んだ時です。『えっ、イエス様って、人間だったの!?』という衝撃が、稲妻のように私の心身に走りました。それ迄は、『神の子なんだから、全部プログラムされていて、痛くも、苦しくもなかったんでしょ?』とっていたのですが、突然、彼の痛みが重大なもので、全て私達の為に負って下さったのだ、という事が理解ったのです。

それからは、様々なしるしが私にもたらされました。聖霊に満たされ、感動に心がうち震えるような瞬間が、沢山沢山ありました。須賀さんからお借りした『神の小屋(ウィリアム・ポール・ヤング著) The SHACK』という小説も、兄の死を理解するのにとても役立ちました。何度も何度も読み返すうち、人ごとのようでなかなか入り込めなかった聖書の中のイエス様も、温かい血の通った人間として感じるようになり、ある日、寝ている時にハッキリと、『今ここに、イエス様が私と共におられる。いや、今までもずっとおられたのだ！何故気付かなかったのだろう!?』と感じました。

ちょうどその頃、週報に『If God is for us, who can be against us?』という聖句が載っていました。正にもう恐れるものなどない、という絶対的な安心感に包まれ、ものすごく嬉しくなりました。そして、今までの学びの中で、『クリスチャンとは、イエス様を信じる、って心に決めた人達』と聞いていたので、『そうか、だから兄弟姉妹って言うんだな！』（この教会では〇〇姉妹と呼び合う事はありませんが）と、世界中の兄弟姉妹達に思いを馳せ、全員と次々と握手をして、『私、理解っちゃった！この幸福感を持っている人達が、クリスチャンなんだね!!ありがとう神様。』と言って廻りたいような気持ちでした。それからは、全て美しい自然の造形を目にする度に、『神様は何て完璧で美しいものをお造りになるのだろう。これが偶然の産物である筈がない。全て父なる天の神が作られたものであるのは間違いない。』と確信しました。今日という日は主が創られた。あれ程、学校教育から学んで来て疑いを持たなかった進化論に対しても、真実の幕が上がり、別の世界が見えたように感じました。

それでも、聖書の中にはまだまだ疑問点や納得のいかない点も多くあり、『洗礼は、死ぬ前の日でいいや・・・なんか怖いし・・・』と思っていました。その頃、友人の斎藤まこさんが闘病の後、亡くなりました。御葬儀で久しぶりに Heaven's Shout のクワイヤに加わった私は、前夜の練習では、悲しみの涙でとても歌にならず、『これでは何の供養にもならない。皆の賛美歌でしっかり送ってあげなければ。』と心に決めました。その夜はものすごい暴風雨で、『明日の御葬儀は大丈夫かしら・・・』と心配になるような天気だったのですが、当日の朝には正に台風一過、カラリと晴れました。会堂の入口で私はご主人に挨拶し、ドアのガラスの向こうに見えた美しい青空を見ながら、「このお天気、素晴らしいですね。さすがまこさん・・・!」とお声掛けすると、言葉数の少なそうなご主人が、「あ・・・まこも、大丈夫。って、言ってたんですよ・・・。」とポツリと仰いました。私は大きな感動に包まれました。それは彼女が、「私のお葬式の日には晴れるから大丈夫。」と言っていたのでは勿論なく、「私は引き上げられるのだから、大丈夫よ。」と言っておられ、それを Non Christian であるご主人が理解しておられた事を知り、『ああ・・・良かった!!』と心から思えたからです。立て看板には、『斎藤まこ様 召天式』と書いてありました。私は初めて、それが、故人が本当の意味で『天に召される』式典であることを理解しました。

まこさんは私よりも後から教会に繋がった筈なのに、早くにあっさりと洗礼を受けられたように感じていたので、正直、『良いの？大丈夫なの？』と戸惑っていた私もいたのですが、とんでもないことでした。それを知ってから、『私もやっぱり洗礼を受けなくては。今すぐに。』と思うようになりました。ただ、心の中では決心していても、なかなか口に出す事が出来ませんでした。しばらく後の日曜礼拝で、一匹の雀が歌詞に出てくる讃美歌を歌い始めた時のことです。雀とは全く関係ないのですが、突然、イエス様とまこさんがマンツーマンで一緒に居る姿が脳裏に浮かび、私の目にはお二人の体温が感じられる位ハッキリ見えました。もうその後は、歌詞も何も分からなくなる程涙が止まりませんでした。『まこさん、イエス様に会えたんだね！そこで待っててね。私も準備していつか行くから。』と心から語

り掛けました。

その後は本気で具体的に洗礼を考え始めました。それからの日々、見る空や木々の緑や風の美しいこと・受洗を決めた日には、夕焼けの大空を貫くように、何本もの飛行機雲がどこまでも南西の方角に向かっていて、その一つが見事に十字架の形にクロスしていました。

3月には、大好きだったタラちゃんも天に召されました。彼女は、私が悩んでいたピアノのクレームに対しても、「とーまさんは、その方のこと憎んでいる…のね?」と優しく話を聴いて下さったこともあり、結局私は最後までそのお相手に怒りを表すことをせずに、当方で防音室を設置する事で解決を試みたのですが、結果としてそれが今の心の平安につながっています。争わなくて良かったのです。弥生さんも、「その方を許します。赦します。って唱えてみて。」と仰いました。「とても無理!」と思っていたのですが、今は、聖書の教えを知る方々の強さの秘訣を知りましたので、唱えることだけですが(笑)、出来るようになりました。『何たって私には神様ががついているんだから♪』と優越感に浸るようになってしまふ私は、まだまだ未熟かもしれませんが(笑)。

「死んだら、私は兄に会えますか?」と安食先生にお聞きしたことがあります。「それはね、とーまさん。聖書は沈黙しているんだよ。でもね、神様は良いお方だからね。」と言われました。その時は『やっぱり…。』と少し失望したような気持ちもあったのですが、先生がキッパリとその2つの事を伝えて下さったことをとても感謝しています。Joy 先生との学びの中では、「子供は特別、という解釈もあります。」と教えて頂きました。

そして、昨年の6月15日、15回コースの学びの6回目が『信仰告白をしてみましよう。』という回でした。プリントに印刷された例文に、私は何の疑問も頂くことはありませんでした。なので私はそこで、その通りです。と Joy 先生にお話し、その日から私はクリスチャンになった、と思っています。『聖化』という言葉も教えて頂きました。私のこれからの人生のコンセプトです。

兄の事では、8歳でお嬢様を亡くされた大角先生御夫妻、弟であった高根沢教会の大角えりや先生にもお願いしてお話を聞いて頂きました。何よりも助けになったのは、それぞれの方々が、神様と個人的にとっても良い関係を築いておられることです。

バイブルディスカッション仲間の幸絵ちゃんから借りた『信じてたって悩んじゃう』(みなみななみ著)というクリスチャン漫画にもありましたが、『神は何故理不尽を許されるのか?』『悪が存在するのは何故?』と、疑問は尽きません。でも、そこで、『神様は人間の自由意思を尊重して…。』などと説明するよりも何よりも、『とにかく、私は今、神様を知って、とても幸せなんです。』という事に尽きると思います。

NZ の渋谷牧師が、『朝起きると嬉しくてたまらなくて、すぐさま神様の所へ祈りに行きたくなってしまふ。』というお話を聞きました。渋谷先生が裸足でパタパタと、『神様～♪』と起きて行かれる様子は、

それは いつから 己が宿命を知って生え出でたか
 これだけの庭に 今では孤高にそそり聳え立つとは

9 尺脚立のてっぺんから 剪定バサミの届くことなし
 そは 幾年嵐に見舞われ 夜通し猛り狂い 強風雨に身をば任せ
 波立ち揺すられ続けていたか
 なれが 次第に隣家を襲い 電線を強打し
 光ケーブル支線を打ち切るほどのことをなせば
 主（あるじ）は 丸パイプを持ってなれを捕獲し 押さえつけ 撥ねねばならぬ
 9 尺もまた中ほどでしかない 巨木のなれを切断
 引きずり落とさざるを得なくなったその苦悶 その悲哀を 誰が知ろう

棕櫚の木よ 如何なる別れを告げようか
 その昔 いくつもの家を瀟洒に飾りし樹よ
 我らが子らの成長を共に楽しみ 伸びいたった幹よ
 その高空に映える雌花の数々 その果実の色香は 海底にひしめくサンゴではないか
 あまた猛暑の中に なれは何処と交信し そが思いの丈を打ち明けたるや
 海からの風音が 静かに吹き過ぎる

渴いた涙の目の奥に ドッドーンと伐り落ちた棕櫚の幹
 ひん剥かれた棕櫚の網皮 千重の思いの絡み いのちの秘事
 肌を晒され 伐られ 間もなく曳かれていったスクラップヤード
 今頃 風はその噂をしてくれているか

棕櫚の木 その優美なること

そが キリストエルサレム入場にあつては 民は歓呼し迎えたではないか
 目前を過ぎる子らがうち振るうは それではなかったか
 ナツメヤシの葉なれど 棕櫚の葉と記されしもの

幹の重さとその一心同体の木こりの重愛 落下すれば
 傷心のなれも木こりも 共に聞いたではあるまいか
 切り株が先に見たもの 流浪のユダヤの民にあらずして
 我は かく誕生の丘に茂りつづけるもの そして待つものなりと



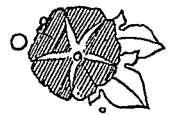
ユーモラスですが、今の私にはその気持ちがよく理解ります。私も自分の子供は可愛いもので、無償の愛を注げるものですが、そんな萌え萌えの愛情を、私達も父なる神様から受けているのです。『私の目には、あなたは高価で尊い。私はあなたを愛している。イザヤ 43:4』

神の家族となることは、なんと心強いことでしょう。信仰告白をした私を喜んで、EFL の Faith のアメリカのファミリー皆が、カードを書いて下さいました。全世界に家族がいるのだ、という事を感じ、とても嬉しいです。

思えば、私が今日この日に到る迄には、長い道のりと伏線があったのだな…と感じます。それが神の御計画であり、最善のもの…と考えられるようになるには、時間が掛かりました。これからの私の人生にも、色々つらいことがあるかもしれませんが、でも私には信仰があり、仲間もいる。本当に多くの方の関わりと導き、祈りによって、今日を迎え、祝福して頂くことが出来ました。ありがとうございます。

最後に、いつも自由に私を教会に行かせてくれて、一年がかりでしたが、反対していた洗礼にも、最終的には、「いんじゃない？」と言ってくれた主人、見守ってくれる娘達、そして、持ち前の好奇心と素直さで、一度礼拝に来てくれた年老いた母にも、感謝を捧げます。

心から歓迎します



津島 仁美

転会日:2019年8月18日

私は夫のアメリカ滞在でオハイオで約6年を過ごしました。洗礼を受けたのはそこで通っていた地元の教会 Riverside United Methodist Church で、2013年4月のことです。

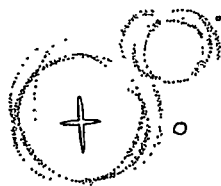
思えば私はいつも自分の納得する自分を欲しがっていました。満足感がなくて何も自信が持てません。努力はつらくない性格なのである程度はうまく近づくのですが、例えば日々のおしゃべりも私の心を表すには英語力が足らずもやもや…。中年で初めて夢中になったピアノも皆の中で弾く技量には達せずこわごわ…。なんとも宙ぶらりん心でとても疲労しました。それで一人静かに祈るようになりました。

あるときに思わず心が声になって溢れました。「神様、あなたがどうしても必要です。自己中心でどうしようもない私ですけどあなたにどうか会わせて下さい」と。そうしたら応えて下さったのです。「プレーヤー (prayer) キルト」の集まりに出ていたときです。皆でパーツをつなぎパッチワークをつくる作業なのですが、いつも途中お茶を交え祈りあう時間がもたれます。口々に語られる祈りのあいだに、

部屋の空気に感じるものがありました。確かにいらっしゃる。私もありのままで受け入れ愛して下さい。イエス様と生きたいと思った瞬間でした。

その日家族に話し、すぐ牧師に気持ちを伝えました。私の罪のためキリストが死んで下さり、よみがえり永遠の命を与えて下さったことが、誠実に受け入れられました。説教がくわしく聞きとれてもなく聖書もよく読めない私が、ただ聖霊の働きによって神様の恵みを受けられました。

本帰国して母国語で学びを深めていけています。峰町キリスト教会に導かれたことを感謝しています。どうぞよろしくお願い致します。



【夜、語られる神】

大角 健一

母はいつも言っていました。「夜爪を切ると親の死に目に遭えなくなるよ」それは本当でした。母のことばなど歯牙にもかけなかった小さな私は、平気で爪を切っていましたが、確かに父の死に目に遭えなかったのです。

急に苦しみ出して胸を掻き毟った父が救急車で搬送されるのを見送った私は、その数時間後、顔に白い布をかぶせられて無言の帰宅をした父と対面をします。それからです。母から聞いていたことばに、幼い私の心は雁字搦めにされていきます。再び禁を犯して唯一の肉親である母の死に目にも遭えなくなることを思うと、夜爪を切ることができなくなってしまいました。私が呪いのことばから解放されるのには、クリスチャンになるまで約15年を要したのです。

私はまた、「夜」そのものを恐れるようになりました。夜が更けると、夜明けが待ち遠しくてたまりません。布団に横たわっても天井のしみが気になりだし、しっかり閉めたはずのガスの元栓からシューという音が聞こえて来る気がして寝付けません。「夜」は何か悪いことが起こる不吉な時間に思えたのでした。

私に限らず、「夜」にネガティブな思いを持つ人は少なからずいるでしょう。しかし聖書の見方は違います。万物を造られた神様は、昼だけでなく夜も「非常に良い」とおっしゃいました。神様はすべての時間を造られ、支配しておられるのです。

一般に明るいことは評価されても、暗いのは良くないと思われています。けれども、その両方を「良い」とおっしゃる神様がご自分のしもべにおことばをかけられるのは、実は暗い「夜」が多いことにお気づきでしょうか。

アブラハムがイサクをささげよとの声を聴いたのも、マリヤを妻に迎えることに逡巡していたイエス様の父ヨセフに声をかけ、またヘロデ大王の魔の手が迫っていた時エジプトに逃れるようヨセフに語られたのも「夜」でした。

ダビデの信仰の土台を築いたのは、夜たった一人、野で羊の番をしている時に親しく聴いた神

様の声でした。使徒パウロも、いのちの危険が差し迫ったエルサレムで、「ローマに行ってわたしの証しをすることになる」という神様の声を聴き、奮い立たされたのです。

ダビデは「実に、夜ごとに内なる思いが私を教えます」（詩篇 16:7）と謳います。心の奥底＝霊に夜語りかけられる神様の声に、ダビデは励まされてきたのです。

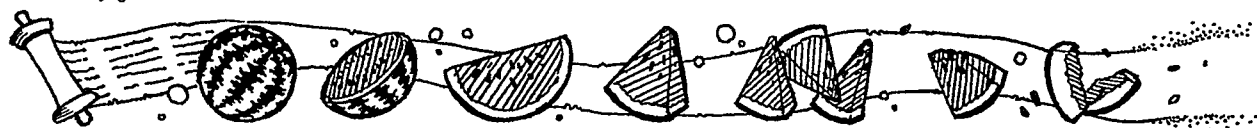
ただ、すべての人が「夜」神様の声を聴けるわけではありません。神様はすべての人に例外なく、「夜」語られるのですが、その声が聴こえない人もいますのです。

「私はいつも、主を前にしています」（詩篇 16:8a）の新改訳第3版は「私はいつも、私の前に主を置いた」です。原語に即して訳すと、「私は目の前の岩を通して（透かして）いつも主を見ていた」となるそうです。

人生の「夜」は、まるで目の前に大きな岩山が立ちはだかっているかのようです。けれどもそんな「夜」に神様の声が聴こえる人は、その岩山を透かして、その向こう側におられる（すべてを支配しておられる）神様を見ているのです。

神様を見ている、見ようとしている人に神様の声は聴こえます。その時、自らを取り巻く「夜」の闇がどんなに暗くても、私達もダビデのように高らかに宣言することができるのです。「主が私の右におられるので 私は揺るがされることがありません」（16:8b）

確かにサタンは「夜」働きます。ユダにサタンが入ったのも「夜」でした。しかし主は慌てることなく、「あなたがしようとしていることを、すぐにしなさい」とおっしゃることができました。主イエスもまた嵐の「夜」に父の声を聴き、勇気を持って自らの使命を全うすることができたのです。



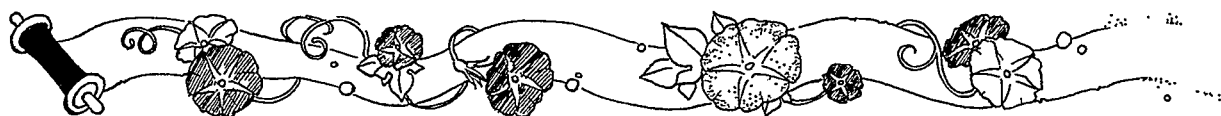
サンノゼからこんにちは。(13)

渡邊明

私達の住んでいるサンノゼを南端に、北のサンフランシスコまで広がるハイテク産業が集まっている地域はシリコンバレーと呼ばれています。そして今、第2のシリコンバレーとしてイスラエルは注目を集めています。そのせいか、サンフランシスコ国際空港から1日1便イスラエルのテルアビブ空港まで直行便が飛んでいます。私達が出発したその日はビジネスマンや旅行者に混じって、多くのユダヤ人で満席状態でした。サンノゼには大きなユダヤ人コミュニティがあります。ユダヤ人のために特別な機内食が用意され、ある一定の時間になるとトイレ付近のスペースで首を振りながらお祈りをしている人々を多数見かけました。不思議な光景でした。では、私のイスラエル旅行記です。

2月17日から27日まで、CPM イスラエル10日間の旅に夫とともにカリフォルニアから参加

することができたことは本当にすばらしく、忘れることのできない思い出深い旅になりました。このような企画をして下さった福野先生をはじめ、関係各位の皆様に心から感謝いたします。出張で2回イスラエルに行ったことがある夫の話やイスラエルの写真から幾分想像はできたものの、自分がその地に立ち、現地の人々に接し、その雰囲気味わうのは想像を遥かに超えるものでした。最初の数日間は団体行動に馴れるために精一杯で、見学コースの順番を断片的にしか覚えていないことに気がきました。また、世界各国からの観光客が自分達の言葉で、エンゲティの泉で、山上の垂訓教会で賛美をしている様子を見て、私はすごい所にやってきたのだと改めて思われました。ガイドをして下さった信夫さんの説明をメモする余裕もなかったなあと真っ白なしおりを見て、夢中で過ごした数日を思いました。そんな中でも、ペエルシェバの世界遺産のアブラハムの井戸の見張り台に立って、南方に広がるネゲブ砂漠を見ながら、私はアブラハムがハガルとイシュマエルを送り出したその場所にいるのだと不思議な感動を覚えました。見渡す限り広がる砂漠に数日間の水と食料だけを持たせて、二人を行かせなければならなかったアブラハムの唯一の頼りは神の約束だけでした。そして神は誠実にそれを果たしてくださいました。4000年前も今も変わらず働いてくださっている神の計り知れない愛を感じる時でした。緑と水の豊富な日本で育った私にとって、マサダ要塞やクムランの洞窟、エッセネ派の修道院を実際に見ることができて、神の約束を何代にも亘って語り継いできたユダヤの人々の生活や精神を理解する糸口がつかめたかなと思いました。また、信夫さんがイスラエルが今置かれている現実を、地雷が埋められているゴラン高原やパレスチナ自治区にあるエリコやベツレヘムを通して説明してくださいました。自分が今までほとんどそれらについて理解していなかったことを思い知らされ、イスラエルと中東諸国について祈らなければならないと強く感じました。ガリラヤ湖畔は南の砂漠地帯とは対照的で、水と緑が豊かで、アルベル山の可憐な花々とそこから眺める広々とした湖畔の景色に心が癒されました。24日の集会で、ローゼンブリット師が詩篇122篇からメッセージを語ってくださった時、「都上りの歌」が今までと違った理解で私の心に入ってきました。3000年前の詩篇記者の、神を愛し礼拝し、エルサレムの平和と繁栄を祈る気持ちが身近に感じられました。一生に一度は私もエルサレムに行ってみたいという願いが叶い、都に上ってきたのだと思うと神への感謝とともに世界中の人々が救い主イエスを崇める日が来ることを祈っていいと思いました。



<9月・聖務表>

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
12:30IBF 12:45HOPE 13:00中国語 15:00UCLA	UICS始業礼拝 10:00芙蓉の会	10:30雀宮 I	10:00ハイナイト 10:00上三川 10:00宇都宮聖歌隊	10:30石井 13:30Wデッサン 18:30NHKゴスペル	10:00UCLA	聖餐式 10:00シスコ宣教師送別会 7:00SMAP 14:00小梅堂 10:30かぬまプレイズチャーチ
8	9	10	11	12	13	14
聖餐式 いのちのことば社峰町書店 12:30役員会 12:45HOPE 13:00中国語 15:00UCLA 14:30イブ*初人 10:10ハイナイト			10:00ブレスドエリム 10:00上三川 10:00賛美の会/MCC48 12:00バイブルディスカッション	10:00ミニチャーチ響 10:30歌声喫茶喜楽喜楽 12:00ハモス会 18:30ゴスペルHS	10:00UCLA	7:00SMAP 10:30かぬまプレイズチャーチ 14:00小梅堂シャロームチャーチ 14:00男の証会 15:00栃木EMF 17:00宇都宮聖歌隊
15	16	17	18	19	20	21
聖餐式 10:15ナオミの会 12:30IBF 12:45HOPE 13:00サ・パ・ス 13:00中国語 15:00UCLA 15:00光と風の家定例会	敬老の日 13:30壮年会講演会	10:30雀宮 I 18:30U-gather	10:00賛美の会/MCC48 13:30NHK講座 18:30宝木留架	10:30真岡 13:30Wデッサン 10:30コイノニア in ミルトス 12:30マルコを読む会 18:30HS手話 18:30NHKゴスペル	10:00UCLA 10:00NHK 講座 14:00LMS	いのちのことば社峰町書店 7:00SMAP 10:30かぬまプレイズチャーチ 14:00オープンハイナイト 14:00小梅堂シャロームチャーチ
22	23	24	25	26	27	28
いのちのことば社峰町書店 11:00ハンナ会 12:30COC 12:45HOPE 13:00中国語 14:30イブ*初人 15:00UCLA	秋分の日 10:00泉のほとり	10:30こひつじ会 11:00雀宮 II	10:30賛美フラ 12:00バイブルディスカッション	VIPゴルフ 9:00親子の会 18:30ゴスペルHS 19:30United	10:00UCLA 14:00LMS	7:00SMAP 10:30かぬまプレイズチャーチ 14:00小梅堂シャロームチャーチ 17:00宇都宮聖歌隊
29	30					
12:45HOPE 13:00中国語 15:00UCLA						

※聖務表についてのご意見・ご質問は、事務室までお願いします。

@@@@@土曜礼拝・19:00/日曜第1礼拝・7:00/第2礼拝・9:00/第3礼拝(英語、中国語通訳有り)・11:00/第4礼拝・13:30@@@@@

週 数	日 付	説 教	聖書朗読				賛美ロード					奏楽					特別賛美		ミル トス	英語 通訳	生 花
			土	第1	第2	第3	土	第1	第2	第3	第4	土	第1	第2	第3	第4	第2	第3			
第1週	1	滋良	久保	赤阪	高木	入江	和代	詩音	山下	夏織	孝紀	亜有美	詩音	紀子	夏織	孝紀	牧人		栗原	ジ ヤ ネ ッ ト	斉藤
第2週	8	大角	栗原	磯	菊地	本田	夏織	孝紀	工藤	詩音	滋良	夏織	孝紀	敦子	小池	滋良	道子	夏織	柏崎		渡辺
第3週	15	滋良	久保	伊藤	桜木	松島	牧人	小池	伊知郎	大角	詩音	牧人	小池	友紀恵	夏織	詩音	道子		長谷川		河合
第4週	22	安食	栗原	小堀	川島	原田	小池	詩音	久保	和代	黒須	小池	詩音	瑞枝	麻美	黒須	磯敏則		松島		栗倉
第5週	29	安食	久保	赤阪	山本	金子	夏織	孝紀	山本猛	夏織	牧人	夏織	孝紀	紀子	夏織	牧人	ハンドベル		小野		伊澤